



ASIA-PACIFIC OPEN GOLF CHAMPIONSHIP Panasonic OPEN

2010. 9/23[木]・24[金]・25[土]・26[日]



アジア・太平洋の

No. 1

の栄冠は誰の手に





世界17ヶ国、132選手が熱戦

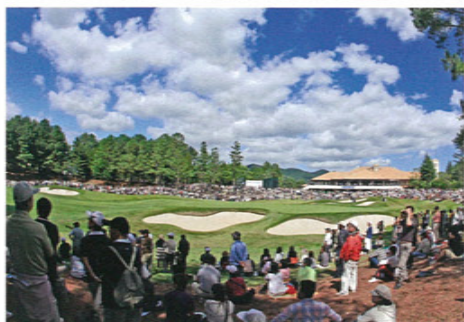
2010アジアパシフィックオープンゴルフチャンピオンシップ・パナソニックオープンが、9月23日～26日の4日間、当倶楽部東コースで開かれた。アジア太平洋地域のナンバーワンプレーヤーを決めるべく、アマ・プロのトッププレーヤー132選手が出場。

メジャートーナメントに相応しくセッティングされた、深いラフと絞り込まれたフェアウェイの難コースで、白熱した戦いが繰り広げられた。

大会初日は、朝から雷を伴う激しい雨に見舞われた。午前7時以降アウト・イン3組ずつの選手がプレーをスタートしたものの雨の勢いは衰えることなく、同9時53分に中止が決まった。これに伴って、競技は予選ラウンド36ホール、決勝ラウンド18ホールの計54ホールに短縮されることとなった。

パナソニック所属でホストプロを務める石川遼は遅い組でのスタートだったため「最初から3日間と決まっている方がやりやすい」と気持ちを切り替えていた。

2日目に開催された第1ラウンド。平日ながら5,908人のギャラリーが待ちわびたように詰めかけた。雨は上がったものの、時折強い風が吹く厳しいコンディション下、混戦の展開から4アンダーで首位に並んだのは、細川和彦、甲斐慎太郎、S・K・ホ（韓国）、G・ブラー（インド）の4選手。主催者推薦で出場した細川は「お願いして推薦をもらっただけによかった」と安堵の表情。甲斐はシードがかかる賞金ランク60位を割り込んでいるため「ここから頑張らないと」と気を引き締めていた。石川は2アンダーの9位タイ。4つのボギーをたたいたものの6つのパーディをとり好位置につけた。



3日目第2ラウンドに入っても、気まぐれな風が選手たちを苦しめた。スコアが伸び悩む中で単独首位に立ったのは、この日スコアを一つ伸ばして4アンダーとした小田龍一。「この2日間は上出来、まぐれです」と顔がほころんでいた。これを1打差で追うのは、石川と甲斐の2人。石川は前半伸びあぐねたものの、後半の6番パー3（187yds）で自身ツアー初となるホールインワンを達成した。通算2アンダーの4位タイには、片山晋呉、丸山大輔、盧承烈（韓国）ら7人。さらに通算1アンダーの11位タイに、すし石垣、細川、B・ジョーンズ（オーストラリア）ら7人が続く混戦となった。

最終日は12,148人の大ギャラリーが見守る中、風の影響もあり一進一退の戦況が続いた。その中でするすると抜け出したのが、3打差を追ってスタートしたB・ジョーンズ。4番パー5でバンカーからのチップインイーグルを奪うなど前半で3つスコアを伸ばし、インに入っても2つのパーディをとって66をマーク。

甲斐、石川が後半で失速する中、小田が追い上げたものの及ばず、ジョーンズの優勝が決まった。

Rank	PLAYER	1R	2R	3R	4R	TOTAL	SCORE
1	B・ジョーンズ(豪)	-	71	70	66	207	-6
2	小田 龍一	-	68	70	70	208	-5
3	金 庚泰(韓)	-	70	72	67	209	-4
	すし 石垣	-	74	67	68	209	-4
	丸山 大輔	-	68	72	69	209	-4
6	近藤 共弘	-	70	72	68	210	-3
	甲斐 慎太郎	-	67	72	71	210	-3
8	P・マークセン(タイ)	-	70	74	67	211	-2
	盧 承烈(韓)	-	70	70	71	211	-2
	S・K・ホ(韓)	-	67	73	71	211	-2
	片山 晋呉	-	69	71	71	211	-2
	M・ヘンドリー(ニュージーランド)	-	70	70	71	211	-2



B・ジョーンズ *Winner's Voice*

3打差逆転で3年ぶりの勝利

アジア太平洋地域ナンバーワンの栄冠は、ツアー屈指の飛ばし屋、B・ジョーンズの頭上に輝いた。2007年の日本シリーズ最終日にコースレコードの61をマークして12位から逆転優勝したシーンをほうふつとさせるような爆発力で3年ぶりの勝利。

ジョーンズも「信じられないくらい興奮している」と素直に喜びを表現した。

(優勝コメントは以下の通り)

「六甲国際ゴルフ倶楽部会員の皆様、アジアパシフィック パナソニックオープンでは沢山のご声援まことに有難う御座いました。

六甲国際ゴルフ倶楽部は、今年ラウンドした中で最もタフなセッティングだったと思います。特に、長いラフには苦戦しました。

ティーショットでフェアウェイを外してしまうと、パーディを取る事が非常に



B・ジョーンズ (本名: ジョーンズ)

Winner's Profile

1975年3月3日生まれ オーストラリア出身
 身長185cm 体重82kg 血液型A型
 ●所属スポンサー/キャロウェイゴルフ
 ●出身校/MORUYA ●ゴルフを始めた年齢/10歳

難しく、そのような中、無理をして全ホールでパーディを取りに行くアグレッシブなプレーは避け、トラブル時は、いかにパーで切り抜かれるかを考えながらプレーをした結果、優勝する事が出来たと思っています。

またこの難しいコースセッティングでの勝利を私自身誇りに思っています。

この度は、このような素晴らしい舞台を提供して下さった会員の皆様をはじめゴルフ場関係者の方々に深く感謝申し上げます。

残りのシーズンも最後まで精一杯がんばりますので、皆様の応援を何卒宜しくお願い申し上げます。」



ツアー初のホールインワンで
大会を盛り上げる

石川 遼



【奇襲】ケーアイ企画 / 石川 勝美様

大会2日目にドラマは待っていた。

6番ホール・187ヤード・パー3。

7番アイアンで放ったボールは、ピンの1メートル手前から2バウンドしてそのままカップインした。

その瞬間、ギャラリーからは大きな歓声が沸いた。

「ボールがグリーンに落ちた後、消えてしまい、何が起きたかわからなかったけれど、歓声が聞こえて入ったと思いました。風をうまく計算できて距離感もよかった。スカッとしました」。

ツアーでは自身初のホールインワンとなったが、「受け取った方が喜んでくれれば」と、ボールは惜しげもなくギャラリーに投げ込んだ。

最終日は、一時首位に並ぶ追い上げを見せたが、後半に崩れた。ホストプレーヤーとして「気合が入りすぎていたのかも」とひとこと。「優勝争いという盛り上がりをつくれなかった」と悔やむようにコースを後にした。

